

3) 専門科目群

専門科目群は、学科基礎科目、文化論・比較文化系、文学・語学系、歴史・思想系、応用科目、修了科目、演習科目(表4)からなっている。

表4 専門科目群

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 講義	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4		
		必修	選択	春学期	秋学期										
学科基礎科目															
CHR-300	キリスト教文化論A	2		○		3			オムニバス			●			
CHR-300	キリスト教文化論B	2			○	3						●	●	●	
FYE-100	日本文化概論	2			○	1						●			
FYE-100	文章表現法	2		○	○	1		必				●			
JLN-100	日本語学概説	4		◎		1~		必				●	●		
JLT-100	日本文学概説	4		◎		1~		必				●	●		
JPH-100	日本史概説A	2		○		1~						●			
JPH-100	日本史概説B	2			○	1~						●			
JLE-100	日本語教育概論	4		◎		1~				[日本語教員養成課程] 必修		●			
JLT-100	古典読解A	2			○	1・2				A群 6単位選択必修 原則として1・2年生のうちに履修すること		●			
JLT-100	古典読解B	2		○		1・2							●		
JLT-100	近現代文学読解	2			○	1・2							●	●	
HSG-100	史料読解	2			○	1・2							●		
HIT-100	日本思想入門	2			○	1・2						●			
CUA-100	日本文化入門	2			○	1・2						●			
HIT-100	日本思想概説	4		◎		1~						●	●		
CUA-100	相関文化	2		○		1~						●			
CUA-100	比較文化概論	4		◎		1~						●	●		
HSG-100	文化交流史(アジアと日本)	4		◎		1~				隔年開講		●	●		
TOS-100	地域と芸術文化	2		○		1~				人数制限20名		●	●		
CUA-100	日本の芸能・工芸①	2		○		1~			人数制限20名		●	●			
CUA-100	日本の芸能・工芸②	2			○	1~			人数制限40名		●	●			
LIH-100	出版と編集	4		◎		2~					●	●			
ARL-100	放送文化	4		◎		2~			B群 4単位選択必修		●	●			
ARL-100	ナレーション	2		○		1~			人数制限20名		●	●			
ARL-100	身体と表現	2		○		1~			人数制限40名、隔年開講		●	●			
ARL-100	文芸(創作)A	4		◎		1~			人数制限20名		●	●			
ARL-100	文芸(創作)B	2		○		1~			人数制限20名		●	●			
ARL-100	企画制作	2		○		1~			人数制限20名		●	●			
JLE-100	日本語表現法(ディベート)	2		○		2~		必	人数制限40名		●	●			
ARL-100	書道	2		◎	◎	1~	実習	選	人数制限30名 中免必修		●		●		
JLE-200	国際交流と多文化共生	2			○	2~			人数制限30名		●				
文化論・比較文化系															
ARL-200	日本の演劇	4		◎		2~			隔年開講 隔年開講		●	●			
FAH-200	日本の美術	4		◎		2~						●	●		
ASA-200	日本の音楽	4		◎		2~						●	●		
CUA-200	日本の民俗	4		◎		2~						●	●		
ARL-200	日本のポップ・カルチャー	4		◎		2~						●	●		
ARL-200	視覚・表象文化(映像文化)	4		◎		2~						●	●		
ARL-200	視覚・表象文化(グローバル時代の映像)	4		◎		2~						●	●		
GDE-200	女性学	4		◎		2~						●	●		
CHS-200	こどもと文化	2			○	2~						●		●	
CST-200	異文化間コミュニケーション	4		◎		2~						●		●	
SOC-100	社会調査入門	2		○		1~						●		●	
SOC-100	社会調査の方法	4		◎		1~						●	●	●	
SOC-300	社会統計学の基礎	2		○		2~						●	●	●	
SOC-300	量的データ解析の方法	2			○	2~						●	●	●	

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 履修形態	教職	備考	○印週1回授業 ◎印週2回授業	DP	DP	DP	DP
		必修	選択	春学期	秋学期						1	2	3	4
SOC-200	社会調査実践Ⅰ		2	○		2～			「社会調査の方法」を修得済であること		●	●	●	
SOC-200	社会調査実践Ⅱ		2		○	2～					●	●	●	
SOC-100	文化の社会学		4	◎		1～					●	●	●	
LIG-200	比較文学		4		◎	2～			隔年開講		●	●		
LIG-200	翻訳文化論		4		◎	2～			隔年開講		●	●		
CUA-200	文化人類学		4	◎		2～					●			
STA-300	韓国文化演習		4			集中	1～	演習	韓国啓明大学校夏期セミナー		●		●	
CUA-300	日本文化特殊講義		4		◎	3～			※		●	●		
CUA-300	比較文化特殊講義①		4	◎		3～			※ 隔年開講		●	●	●	
CUA-300	比較文化特殊講義②		4	◎		3～			※		●	●	●	
CST-300	Intercultural Communication		4	◎		2～			JSP科目		●	●	●	
文学・語学系														
JLT-100	日本文学史(上代・中古)		4	◎		1～					●	●		
JLT-100	日本文学史(中世・近世)		4	◎		1～					●	●		
JLT-100	日本文学史(近現代)		4		◎	1～		必			●	●		
JLT-200	日本文学研究と批評(古典①)		4	◎		2～					●	●		
JLT-200	日本文学研究と批評(古典②)		4		◎	2～					●	●		
JLT-200	日本文学研究と批評(近現代①)		4	◎		2～					●	●		
JLT-200	日本文学研究と批評(近現代②)		4		◎	2～					●	●		
JLT-200	日本文学の中のキリスト教A		2	○		2～			隔年開講		●	●		
JLT-200	日本文学の中のキリスト教B		2	○		2～			隔年開講		●	●		
LIG-200	児童文学		4	◎		2～					●	●		
LIN-200	言語学概論		4	◎		2～					●	●		
LIN-200	対照言語学		4		◎	2～					●	●		
LIN-200	言語文化論		4	◎		2～			隔年開講		●	●		
LIN-200	心理言語学		4	◎		2～					●	●	●	
JLN-100	古典日本語Ⅰ		2	◎		2～		演習			●	●		
JLN-200	古典日本語Ⅱ		2		◎	2～		演習			●	●		
CHL-100	中国文学		4		◎	1～		選			●	●	●	
JLT-100	漢文学概説		4	◎		1～		必			●	●	●	
JLN-200	日本語学(文法)A		2	○		2～					●	●	●	
JLN-200	日本語学(文法)B		2		○	2～					●	●	●	
JLN-200	日本語学(音声・音韻)		2		○	2～					●	●	●	
LIN-200	言語使用と社会		2		○	2～					●	●	●	
KOR-300	韓国語コミュニケーション		2	◎		2～		演習	韓国語Ⅰを修得済であること		●	●	●	
CHI-300	中国語コミュニケーション		2	◎		2～		演習	中国語Ⅰを修得済であること		●	●	●	
JLE-100	日本語教授法講義		4		◎	1～					●	●	●	
JLE-200	日本語教授法演習		2		◎	2～		演習	注1 「日本語教員養成課程」必修		●	●	●	
JLE-300	日本語教育実習		2	◎		3～		実習	注2		●	●		
JLE-200	日本語教材・教具論		2	○		2～					●	●	●	
LIN-200	言語とグローバル社会		4	◎		2～			隔年開講		●	●	●	
JLT-300	日本文学特殊講義①		4		◎	3～			※		●	●		
JLT-300	日本文学特殊講義②		4	◎		3～			※		●	●		
JLN-300	日本語学特殊講義		4	◎		3～			※		●	●		
LIN-300	言語学特殊講義		4	◎		3～			※ 隔年開講		●	●		
LIN-200	Language in Society		4		◎	2～			JSP科目、隔年開講 TOEFL 380点またはTOEIC380点以上			●	●	
LIN-200	Theory of Language & Culture		4	◎		2～			JSP科目			●	●	
JLT-200	Japanese Literature		4		◎	2～			JSP科目			●	●	

※特殊講義の中から1科目4単位以上選択必修

注1 「日本語教授法講義」を修得済みであること

注2 「日本語教育概論」・「日本語教授法講義」・「日本語教授法演習」を修得済みであること

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	履修形 態 無 修 講	教職	備考	○印週1回授業 ◎印週2回授業	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
		必修	選択	春学期	秋学期									
歴史・思想系														
JPH-200	日本史の研究(古代史特論)		2	○		2～						●		
JPH-200	日本史の研究(中世史特論)		2		○	2～						●		
JPH-200	日本史の研究(近世史特論)		2	○		2～						●		
JPH-200	日本史の研究(近代史特論)		2	○		2～						●		
JPH-200	日本史の研究(現代史特論)		2		○	2～						●		
JPH-200	歴史と文化		4	◎		2～						●	●	
JPH-200	歴史と社会		4		◎	2～						●	●	
HIT-200	日本の思想(神道・国学)		2		○	2～						●	●	
HIT-200	日本の思想(儒教)		2		○	2～						●	●	
HIT-200	日本の思想(仏教)		2	○		2～						●	●	
HIT-200	日本の思想(キリスト教)		2	○		2～						●	●	
RES-200	比較宗教学		4		◎	2～						●	●	●
CIB-200	中国思想		4	◎		2～						●	●	●
JPH-300	日本史特殊講義		4	◎		3～		※				●	●	
HIT-300	日本思想特殊講義		4		◎	3～		※				●	●	
JPH-200	Japanese History		4	◎		2～		JSP科目				●	●	●
応用科目														
ESS-100	教えるための現代文A		2	○		2～		選必	隔年開講、注3			●	●	
ESS-200	教えるための現代文B		2	○		2～		選必	隔年開講、注3			●	●	
ESS-100	教えるための古典Ⅰ		2	○		2～		必	注4			●	●	
ESS-200	教えるための古典Ⅱ		2		○	2～		必	注5			●	●	
ESS-300	教えるための古典Ⅲ		2	○		3～		選	注6			●	●	
ESS-300	教えるための古典Ⅳ		2		○	3～		選	注7			●	●	
EDU-200	キリスト教と学校教育		2		○	2～		選	オムニバス					●
EDU-300	介護等体験及び事前事後指導		2		集中	3	実習	選	中免必修				●	
EDU-200	生涯学習概論		2	○		2～						●	●	●
LIH-200	図書館情報学概論		2	○	○	2～						●	●	●
LIH-200	図書館サービス概論		2	○		2～						●	●	●
LIH-200	情報メディア史		2	○		2～						●	●	●
IND-300	インディペンデント・スタディA		4			1～							●	●
IND-300	インディペンデント・スタディB		2			1～							●	●
IND-200	インディペンデント・スタディC		1			1～							●	●
IND-200	インディペンデント・スタディD		1			1～							●	●

※特殊講義の中から1科目4単位以上選択必修

注3 2年生以上で、国語科教育法Ⅰを修得済みか、並行履修のこと

注4 国語科教育法Ⅰと並行履修のこと

注5 教えるための古典Ⅰ・国語科教育法Ⅰを修得済みで国語科教育法Ⅱと並行履修のこと

注6 教えるための古典Ⅱ・国語科教育法Ⅱを修得済みで国語科教育法Ⅲと並行履修のこと、中免必修

注7 教えるための古典Ⅲ・国語科教育法Ⅲを修得済みで国語科教育法Ⅳと並行履修のこと、中免必修

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 無印は講義	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
		必修	選択	春学期	秋学期								
修了科目													
SEM-400	卒業レポートA		2	○		4			注8	●	●	●	●
SEM-400	卒業レポートB		2		○	4				●	●	●	●
THE-400	卒業論文		6			4				●	●	●	●
演習科目													
SEM-200	専門演習 I	1		○		2～	演習		同一担当者 I・IIを 付したクラス必修		●	●	●
SEM-200	専門演習 II	1			○	2～	演習				●	●	●
SEM-300	卒業研究 I	1		○		3～	演習		同一担当者 I・IIを 付したクラス必修	●		●	●
SEM-300	卒業研究 II	1			○	3～	演習				●		●
ESS-300	教職演習 A		1		○	2～	演習	隔年開講		●		●	●
ESS-300	教職演習 B		1		○	2～	演習	隔年開講		●		●	●

注8 1科目2単位選択必修。卒業論文提出の場合は、2科目4単位必修。
ただし、卒業論文提出により6単位修得の場合は、1科目2単位は重複して認定されない。

1. 教職課程について

1年次終了時の修得単位数が30単位数に満たない者は履修できない。「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および「教えるための古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」については次のように履修する。

- ① 「教えるための古典Ⅰ」は「国語科教育法Ⅰ」と同時に履修すること。
- ② 両科目とも修得できた者のみが、「国語科教育法Ⅱ」を履修することができる。
- ③ ただし、「国語科教育法Ⅱ」は「教えるための古典Ⅱ」と同時に履修し、修得しなければならない。
- ④ 「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」および「教えるための古典Ⅰ・Ⅱ」を修得できた者のみが、「国語科教育法Ⅲ」を履修することができる。
- ⑤ 「国語科教育法Ⅲ・Ⅳ」および「教えるための古典Ⅲ・Ⅳ」の履修も「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」および「教えるための古典Ⅰ・Ⅱ」と同様とする。

2. 演習科目について

演習科目は、専門演習と卒業研究からなる。専門演習と卒業研究は共に選択必修科目である。

- ① 「専門演習Ⅰ」の履修は2年次春学期であるが、1年次秋学期の事前登録によって履修クラスが決定する。
- ② 「卒業研究Ⅰ」の履修は3年次春学期であるが、2年次秋学期の事前登録によって履修クラスが決定する。
- ③ 「専門演習Ⅰ」および「卒業研究Ⅰ」の事前登録日時や選考方法等については、掲示ならびにガイダンスで周知するので、必ず事前登録をおこなうこと。
- ④ 「専門演習Ⅱ」の履修クラスは原則として「専門演習Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」の履修クラスは原則として「卒業研究Ⅰ」と同じである。
- ⑤ 「卒業研究」を履修する者は、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。
- ⑥ 春学期に演習科目Ⅰの単位を修得できなかった場合、秋学期は単位なしで演習科目Ⅱを聴講することが望ましい。
秋学期に演習科目Ⅱの単位を修得できなかった場合、翌年度春学期は単位なしで演習科目Ⅰを聴講することが望ましい。

3. 修了科目について

4年間の学びを総括するために、4年次に設定してある修了科目の「卒業論文」を履修することが望ましい。また、「卒業レポート」2単位以上を選択必修とする。なお、「卒業レポート」を履修するには、少なくとも「卒業研究Ⅰ」の単位を修得済みでなければならない。

4. 卒業論文について

「卒業論文」は、卒業研究の単位を修得した者が、指導教員の継続的指導を受けたと認められ、規定枚数(400字詰原稿用紙換算50枚以上)に達した、一定水準以上の論文を提出した場合6単位与えられる制度である。

- ① 卒業論文の執筆を希望する学生は、卒業研究の単位を修得後、指定期間に所定の方法にて教育支援課に願い出ること。卒業論文登録の機会は、4年次春学期、4年次秋学期の合計2回ある。いずれかの機会に必ず登録をすること。指定期間に「卒業論文」の登録をしないと単位は認定されないの注意すること。
- ② 卒業論文は、所定の期間(卒業年度秋学期の13週目)に教育支援課に提出しなければならない。春学期卒業予定者は春学期の13週目の提出を認める。
(ただし、提出締切日が休日の場合はその翌日、土曜日の場合は翌週月曜日までとする。)
- ③ 卒業論文は主査の教員が、口述試験を経て審査を行い、評価を決めるものとする。
- ④ 「卒業レポートA・B」を通して履修することを提出条件とする。
ただし、卒業論文提出により6単位取得の場合は、卒業論文と並行して履修する「卒業レポート」の2単位は重複して認定されない。いずれの場合も、卒業時に単位認定される。

5. インディペンデント・スタディについて

文化への関心・理解を深める、あるいは体験・表現を実践するための有益なプログラムに参加・参画した場合、「インディペンデント・スタディ」として、4単位、2単位、1単位いずれかの単位修得が可能である。単位修得を希望する者は、「Independent study 単位認定に関する内規」に従い、事前に学科長に申請書を提出し、学科会の許可を経て事前指導を受ける。事後、そのプログラム内容により単位が認定される。

6. 卒業見込証明書の交付について

卒業見込証明書の発行を請求するには、3年次修了時点において在学期間（注1）が6セメスター以上（2年次編入生は4セメスター以上、3年次編入生は2セメスター以上）で、総修得単位数76単位以上でなければならない。

（注1）休学期間は在学期間に含まない。